

児童生徒への適切な指導のヒント 事例集

平成27年3月

栃木県総合教育センター

目 次

本書の構成とねらい	… 1
事例集の見方	… 2
各事例	
(小学校)	
ケース1 登校を渋る様子が見られ、母親と一緒に登校するA男	… 4
ケース2 不適切な言動により、友達との関係を悪化させてしまうB子	… 6
ケース3 学習意欲が低く、家庭との連携が必要なC子	… 8
(中学校)	
ケース4 小学校の時から不登校傾向があり、欠席が増え始めたA男	… 10
ケース5 友人に威圧的な態度をとり、暴言を吐くB男	… 12
ケース6 授業が理解できずに、学習意欲の低下が懸念されるC子	… 14
(高等学校)	
ケース7 欠席が増えており、昼夜逆転が見られるA男	… 16
ケース8 友人関係がきっかけで、リストカットをしてしまうB子	… 18
ケース9 高校入学後、学習意欲が低下して家庭で暴れるC男	… 20

本書の構成とねらい

- 1 本書は、児童生徒への適切な指導について、具体的な事例をもとにまとめたものです。
- 2 事例の作成にあたっては、栃木県総合教育センターにおいて、平成26年度の教育相談に関する研修を受講した方々から、日頃、各学校で課題に感じていることをお聞きし、その中から、特に多く挙げられた「不登校、不応状態にある児童生徒」「人間関係がうまく作れない児童生徒」「学習意欲が低下している児童生徒」に関する事例を小、中、高等学校の学校段階ごとに作成しました。
- 3 各事例については、児童生徒をどのように見立てるのかという児童生徒理解、それをもとにした学級・ホームルーム担任としてのかかわり、校内における組織的な対応（指導目標の設定や役割分担など）、さらに保護者や他機関等との連携について例示するという構成になっています。
- 4 本書に示しました児童生徒理解とその対応の仕方はあくまでも一つの例です。各校におかれましては、実際に支援が必要な児童生徒の状態像をしっかりと見つめながら、本書を参考に事例検討会を行うなど、支援を充実させていただくようお願いします。

事例集の見方

ケース△（学校種）

友人関係がきっかけで、リストカットをしてしまうB子

概要をすぐにつかみやすいように箇条書きで記入してあります。

事例の概要

- ・高2女子。自分だけがグループから外されたと思い込み、仲の良かった友人と自分から距離を置くようになる。
- ・高1の時からリストカットが始まった。最近は、校内でも一度行った。
- ・……………
- ・……………

生じている課題の要因や背景の仮説が記入されています。

事例から考えましょう

①この生徒の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・自尊感情が低くなっており、物事を否定的に捉えてしまう傾向があるのではないか。
- ・……………
- ・……………

指導の中心である学級・ホームルーム担任のかかわりのヒントが記入されています。

②ホームルーム担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【本人ができていることやよいところを言葉にして返す】
本人は自分のよさに目を向けることができにくくなっているため、具体的にできていること、よいところを言葉で本人に伝え確認する。特に進路目標の実現に向けて努力している点を応援する。

【友人との関係づくりについて一緒に考える】
友人とどのようにつきあっていったらよいのかについて、具体的なかかわり方や応答の仕方を始め、友人との距離の取り方、物事の受け止め方などを一緒に考える。

【 】
……………
……………

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

支援策を話し合うメンバーが記入されています。

【小員会のメンバー】

担任、副担任、教頭、学年主任、生徒指導主事、教育相談係、養護教諭

現実的で評価しやすいことを念頭に置き、当面の目標が立てられています。

【指導目標】

自信を回復させ、リストカットの回数を減らす

チームで支援する際の役割分担がはっきりと分かるように表で整理されています。

【役割分担】（指導期間：○月○日～○月○日）

何をする	誰が	どのように
リストカット以外の方法を一緒に考える	養護教諭	リストカット以外の対処法を落ち着いている時に一緒に考える。
授業中の様子を伝える	教科担任	不安定な様子が見られたら、担任や養護教諭、次の授業担当者に伝える。
.....。。
.....。。

④⑤は保護者や他機関等との連携を図る際のポイントが記入されています。

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【不安を十分に聞く】

どんな時が困るか、どんな点が心配か、具体的に話を聞くとともに、保護者の労をねぎらう。学校に対する要望などを丁寧に聞き、できる指導・援助を具体的に伝える。

【 。

⑤他機関等との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【医療機関との連携】

リストカットの状況が悪化する場合には……

全体を通しての補足内容やポイントなどが解説されています。

かかわりのポイント

リストカットの回数を減らすことそのものに注目しすぎてしまうと、「本人は……

.....
 ...

。

ケース1（小学校）

登校を渋る様子が見られ、母親と一緒に登校するA男

事例の概要

- ・小1男子。入学式の翌日から、登校を渋り、母親と一緒に登校している。
- ・母親は本人と教室まで行き、別室で待機している。
- ・自分から友達の中に入っていきのは苦手である。
- ・絵を描くことが好きで、自由帳にいろいろなイラストを描いて、詳しく説明しようとする。
- ・就学前にも、保育園の入園時や担任が代わった時などに登園を渋り、何日か行かないことがあった。
- ・母親は、祖父の介護に長くかかわっており、「これまでA男に手をかけられなかった」と子育てを悔やむ発言が多い。

事例から考えましょう

①この児童の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・環境の変化に対する不安が強く、緊張してしまうのではないか。
- ・今まで甘えられなかった分、母親との接点をもちたがっているのではないか。
- ・友達や先生からの働きかけがあれば、学校生活に楽しみが見い出せるのではないか。

②学級担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【登校時に安心できるようにする】

A男が登校する時間帯を見計らって、昇降口の外に出て迎える。A男の場合、安心できる母親から、安心できる担任への朝の引継ぎがポイントになるため、母親と談笑する姿を見せるようにする。また、A男には昨夜のことや今朝のことを聞いたり、これから教室に行くことを簡単に説明したりして、不安を和らげる。

【学校が楽しいと思えるようにする】

意図的にA男や友達に手伝いを頼み、担任や友達とかかわる時間を増やすとともに、学級の役に立ったという実感がもてるようにする。また、休み時間はA男が友達と一緒に遊べるように担任から声をかけ、子ども同士のかかわりをつなぐようにする。

【活躍の場を増やす】

絵が上手に描けることや、絵の説明が詳しくできることなどをその都度ほめる。背面黒板や配付プリントに絵を描いてもらうなど、得意な部分を授業などで生かせるようにする。

【お互いに認め合う活動を設ける】

授業中の振り返りや帰りの会の時間に、友達同士を認め合う活動に取り組みさせることで、学級の一員としての実感がもてるようにする。

【学校生活の見通しがもてるようにする】

月始めに行事予定を詳しく伝えたり、帰りの会で翌日の学習予定や準備物を確認したりし、見通しがもてるようにする。その際、目で見て分かるようにするなど伝え方を工夫する。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、学年主任、教頭、教務主任、教育相談係、養護教諭

【指導目標】

母親と一緒に登校し、昇降口で母親から離れることができる

【役割分担】（指導期間：○月○日～○月○日）

何をする	誰が	どのように
指導の進捗状況を把握する	教育相談係	担任と連絡を密に取り、進捗状況を把握する。
母親を支える	学年主任	別室で待機している母親に声をかけ、話を聞く。
他の児童への指導を行う	教務主任	始業前に教室に行き、他の児童の指導をする。（事前に担任と朝の指導内容についての打合せしておく）
教室に入れない場合の対応をする	養護教諭	母親から離れられない場合には、母親と一緒に保健室の利用が可能であることを、担任と一緒に母親に確認しておく。

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【母親を支える】

不安や焦り、自責の念など、保護者の心情に寄り添いながら、話を聞き、現在のかかわりを認め、励ます。

【学校での様子を伝える】

学校でできたことや頑張っていること、友達との様子などを連絡帳に書いたり、朝の引継ぎ時に詳しく伝えたりするようにする。

【家庭で母親とできることを一緒に見つける】

得意なことや好きなことを中心に、本人が母親とできることを一緒に見つける。

⑤他機関等との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【スクールカウンセラーとの連携】

状況が改善されない場合は、学校で配慮する点について担任がスクールカウンセラーに相談する。また、保護者が希望する場合は相談の機会を設ける。

かかわりのポイント

登校を渋る状態にある時、例えば無理に車から降ろそうとしたり、握っている母親の手を離して教室に連れて行こうとしたりすることによって、逆に状態が悪化してしまうことがあります。子どもに十分な安心感が生まれれば、友達と過ごす時間が自然に増えていきます。そのためには、教師や保護者が子どもとじっくりかかわり、安心感を子どもの中に育むことが大切です。

保護者は、現在の状況を心配し、焦りがちになることがあります。しかし、これまでも、A男は、時間をかければ新しい環境に適応できてきたことを確認することで、保護者の不安が軽減されます。そして、適切なタイミングで、昇降口からは担任と教室に行くことを本人に提案し、段階を追って登校班での登校を目指しましょう。

ケース2（小学校）

不適切な言動により、友達との関係を悪化させてしまうB子

事例の概要

- ・小6年女子。思ったことをすぐに口に出し、学級や学年の友達と言い争いになることがある。
- ・以前、自分より優れた点がある友達を仲間外れにすることがあった。
- ・周囲の児童からB子に対する不満が担任に訴えられることが多い。
- ・担任の他に養護教諭に心を開いており、言い争いが激しくなった時に、泣きながら保健室に行くことがある。
- ・縦割り清掃活動では、下級生の面倒をよく見ることができる。また、授業中は学習課題に根気強く取り組むことができる。
- ・両親は仕事が忙しく、B子の話を聞く余裕がない。

事例から考えましょう

①この児童の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・相手の気持ちを考えることが苦手なのではないか。
- ・優れた点がある友達を見ると、妬みから不適切な行動をとってしまうのではないか。
- ・本当は仲良くしたいのに、その方法が分からないのではないか。

②学級担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【気持ちをよく聞く】

B子及び周囲の児童から、トラブルになったいきさつや言い分をよく聞き、どのようにすれば、現在の関係を改善することができるかについて考えさせる。

【相手の気持ちを一緒に考える】

トラブルになった時は、相手がどんな気持ちなのか一緒に考え、相手の心の痛みに気付かせる。

【友達への接し方について助言する】

友達の話をよく聞いたり、自分の気持ちや意見を適切に伝えたりする方法を具体的に教える。

【よさに気づかせる】

縦割り清掃活動などで、下級生と適切にかかわっている場面を具体的にほめ、自分のよさに気づかせる。適切なかかわりができた時に「今のようないい方はいいよね」などと声をかけ、好ましい行動を強化する。

【自信をもたせる】

学習課題に熱心に取り組める点などについて、認め励まし、自信をもたせる。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、学年の教員、特別支援教育コーディネーター、養護教諭

【指導目標】

相手の気持ちを考え、適切な人間関係を築くことができる

【役割分担】（指導期間：○月○日～○日○日）

何をする	誰が	どのように
うまくかかわれている場面をほめる	清掃担当 教諭	清掃の仕方を下級生に丁寧に教える場面など、適切なかかわりをしている場面を見つけ、その場でほめ、担任に伝える。
友達と接している様子を観察し、声をかける	学年職員	休み時間や学校行事の準備などの際に、B子と周囲の様子を観察し、不適切な言動などが見られたら、その場で声をかける。
B子の話を聞く	養護教諭	保健室に来た時は、落ち着かせ、ゆっくりと時間をかけて話を聞く。その後、担任と情報を共有する。

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【成長の様子を確認し合う】

連絡帳を活用し、家庭で頑張っている様子などを伝えてもらう。また、学校での頑張りを小まめに伝え、家庭でも声をかけてもらえるようにする。友達とのかかわりでの変化なども伝え、B子の成長の様子を確認し合う。

かかわりのポイント

思春期に差しかかる6年生は、友達とのトラブルが生じやすい時期です。指導にあたっては、相手の気持ちを推し量ることや、自分の気持ちを適切に伝えることを学ぶ良い機会にもなり得る、と捉え、丁寧にかかわることが大切です。言うまでもなく、いじめに発展しそうな場合には毅然と指導する必要があります。

B子に不適切な言動が見られた場合は、その場で指導します。指導に際して大切なことは「B子はいつもトラブルを起こす。困ったものだ」という一方的な見方を避けることです。友達関係は相互作用であり、いつもB子が悪いとは限りません。あくまでも、客観的に公平に接することが基本です。

また、B子が、自信がもてない、家庭で満たされないなど、困っていることを抱えている可能性もあります。なぜトラブルになってしまうのか、B子の背景にはどんなことがあるのかを十分に考えた上で、よりよい友達との関係が構築できるような指導を行うことが大切です。

あわせて、「下級生の面倒をよく見ることができる」というB子の優しさにも目を向けて、B子自身がその部分を大切にしていけるよう、励まし、支えていきたいものです。

ケース3（小学校）

学習意欲が低く、家庭との連携が必要なC子

事例の概要

- ・小4年女子。授業中の表情がさえず、宿題や自主学習帳も提出されないことが多い。
- ・読書が好きで図書室の本をよく借りている。
- ・母、兄、C子の3人家族。母親は深夜まで仕事をしており、中学生の兄と二人で家にいることが多い。
- ・朝食を摂らずに登校する日が多い。

事例から考えましょう

①この児童の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・これまでの学習内容の理解が不十分なのではないか。
- ・家庭における学習習慣が確立されていないのではないか。
- ・食事や睡眠など、家庭での不規則な生活が学習意欲に影響しているのではないか。

②学級担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【適切な課題を与える】

授業中、個別に声をかけ、C子が何につまずいているのかを探る。そして、C子に合った適切な課題を与え、学ぶ喜びや達成感を味わわせながら基礎的な学力がつくよう指導する。

【学びに積極的に参加させる工夫をする】

小グループの学び合いの時間を設け、周囲の友達に分からないところを気軽に尋ねられる環境をつくる。その中で友達に積極的にかかわったり、進んで学びに向かう場面が見られたらほめる。

【家庭学習の仕方を指導する】

宿題や自主学習の具体的なやり方を一緒に考え、提出できた時は、賞賛や励ましのコメントを記入する。

【将来の目標について考えさせる】

日記指導等においてC子が好きなことや憧れていることを話題にし、将来の自分の姿がイメージできるようにする。

【家庭での過ごし方を一緒に考える】

帰宅後の時間の過ごし方を表やグラフにし、基本的な生活習慣が身につけられるようにする。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいのでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、学年主任、教頭、養護教諭、教育相談係

【指導目標】

宿題や自主学習帳を提出することができる

【役割分担】（指導期間：○月○日～○月○日）

何をする	誰が	どのように
学習面のつますきに対して指導する	授業担当者	授業中、C子がつますいている場面が見られた時、声をかける。あらかじめどのような指導を、どこまで行うかについて、担任と確認しておく。
校内で安心できる場所をつくる	図書室担当職員	読んでいる本や紹介したい本について話し、交流を深めることによって、図書室がC子の心の居場所となるようにする。
健康面について把握する	養護教諭	担任を交え、栄養状態などを確認し、教頭に伝える。
他機関との連携の窓口になる	教頭	学校でのC子の様子や、行っている指導などについて担任とともに整理し、市町の福祉課や民生委員、スクールソーシャルワーカーなどとの連携の窓口になる。

④保護者との連携をどのように図ったらよいのでしょうか？

【連絡の仕方を工夫する】

行事予定や準備物などについて、連絡帳や手紙を活用して連絡をする。その際、必要事項だけでなく、本人の頑張りやうまくいっていることなども織り交ぜて伝えるようにする。

【来校時には多くの職員が声をかける】

学校行事などで保護者が来校した際に、C子にかかわっている担任以外の教員も声をかけ、保護者に安心感を与える。

⑤他機関等との連携をどのように図ったらよいのでしょうか？

【福祉面での連携】

学校が対応できない部分について、市町教育委員会を窓口、市町の福祉課や民生委員、スクールソーシャルワーカーなどと連携する。

— かわりのポイント —

この事例のように、家庭との連携が必要な場合にも、まずは、学校でできることは何かを第一に考える事が大切です。担任として、どのようなかわりをすればC子もっている力が十分発揮でき、自立を促すことができるのかを考えます。その一つとして、十分な基礎学力を身につけられるように、学習面での指導をすることも大切です。同時に、5年後、10年後に自分のなりたい姿がイメージできるようにかかわり、前向きな生活を送れるようにC子を後押しします。

また、学校からの働きかけだけでは、家庭の状況の改善が困難と判断される場合には、教頭に報告し、他機関と連携を図っていくようにします。そのために、それぞれの機関にはどのような機能があるのかを、学校全体で共有しておくといよいでしょう。

ケース4（中学校）

小学校の時から不登校傾向があり、欠席が増え始めたA男

事例の概要

- ・中1男子。小学校の時から不登校傾向がある。
- ・1学期は遅刻も早退もなく、毎日登校していたが、夏休み以降2・3日登校しては1日休むという生活が続いている。
- ・自分から友人に声をかけることは少なく、休み時間は一人で読書をしていることが多い。
- ・登校した日は、清掃や係活動に真面目に取り組み、放課後の部活動まで参加することができる。
- ・両親はA男が学校を休むことに関して、あまり問題とっていない。そのような点について、小学校の時に学校側から、色々と指摘されたこともあり、電話をしても出なかったり、あまり話したがらなかったりする。

事例から考えましょう

①この生徒の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・学級の中に居場所を見い出せていないのではないか。
- ・気を許せる友人が作れないのではないか。
- ・学校を休むことに対して抵抗感がないのではないか。
- ・保護者は「学校に何か言われてしまう」と思っているのではないか。

②学級担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【心の居場所をつくる】

清掃など学校生活の場面で、A男のうまくいっているところを見つけ、声をかけながら認め、励ますとともに、A男から一緒にいて安心できそうな友人は誰かを聞き、その友人に働きかけをするなどして、かかわれるようにする。

【かかわりの場を増やす】

ペア学習やグループ学習を取り入れた授業や、行事の準備の時に協力し合う場面を設け、多くの友人とかかわる場を増やす。

【安心して登校できるよう働きかけをする】

欠席した日は家庭訪問をし、学校生活の中で不安や緊張が生じる要素について話を聞き、A男の思いを受け止める。また、翌日の日程や準備物などについて丁寧に伝え、安心して登校できるような声かけをする。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、学年の教員、部活動顧問

【指導目標】

登校できる日を増やす

【役割分担】（指導期間：○月○日～○月○日）

何をする	誰が	どのように
活躍の場を与える	教科担任	A男の得意な教科の教科担任は、A男が活躍できるよう授業を工夫し、自信をもたせる。
生徒同士のかかわりをつなぐ	教科担任	グループ活動の際、生徒同士の会話や意見をつなぎ、友人と共に学習する楽しさを味わわせる。
声をかけ、励ます	部活顧問	部活動の練習の際、声をかけ、頑張っている姿をほめる。またその様子を担任に伝える。

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【保護者が学校に対して安心感がもてるようにする】

小学校の時の学校と保護者との関係を考慮し、保護者の心情に寄り添った対応を心がける。家庭訪問をし、「本人への適切な指導・援助について一緒に考えていきたい」という方針を伝え、保護者に安心感がもてるようにする。

【学校でできる支援について共に考える】

頑張っている授業や部活動などの様子などを伝え、本人のよさを生かし、心の居場所をつくれるように、指導に当たっていく旨を伝える。その上で、具体的な支援策について共に考える。

【家庭でできる対応について共に考える】

両親が家庭でのA男を励まし、登校を促せるようにするために、朝の時間の過ごし方などを一緒に考える。

— かわりのポイント —

入学直後は、中学校生活に慣れようとして、頑張りすぎてしまい、教師側の想像以上に、エネルギーを消耗している生徒もいることに配慮する必要があります。また、「おとなしく目立たない」生徒を、落ち着いた学校生活を送っている「問題のない生徒」と捉えてしまうことがないように留意しなければなりません。それにより、生徒の困り感を見逃してしまいかねません。

小学校からの引継ぎの内容を確認することや、担任の面接及び複数の教師からの観察を通して、A男が発する小さなサインに気づくことが大切です。

また、担任は、欠席によって分からなくなってしまった学習内容について確認し、教科担任につなぐなど、学習面に遅れが生じないような援助をすることも必要でしょう。

友人に威圧的な態度をとり、暴言を吐くB男

事例の概要

- ・中2男子。部活動の練習の際、仲間のミスに舌打ちをして不快な表情を見せたり、大声で怒鳴ったりするなど、威圧的な態度をとることがあった。
- ・部活動終了後、話しかけようと名前を呼んだが返事をしなかった友人にカッとなり、大声で「キモッ、死ね」等の暴言を吐いた。
- ・行事への取組は熱心で、合唱コンクールでは学級の指揮者として活躍していた。
- ・家族は父、母、小5の弟がいる。父親は学童野球のコーチをしている。B男に対して、小学校の時は、特に厳しく叱っていた。母親は小学生の弟に目が向きがちである。

事例から考えましょう

①この生徒の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・感情のコントロールが苦手なのではないか。
- ・威圧的な態度で育てられたため、自分より弱いと思った友人に対して強く出ているのではないか。
- ・両親から自分の存在を認められていない不満があるのではないか。

②学級担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【行為を振り返らせる】

B男の思いを受け止め、してしまった「行為」を振り返らせる。「このような時に」「こんな気持ちになって」「こんなことをしてしまった」ということを確認する。

【反省を促す】

まず、B男が頑張ってきたことも認め、その上で、逆の立場だったら自分がどう感じるかを振り返らせ、とってしまった行動の影響について教える。

【怒りの感情をコントロールする方法を共に考える】

どんなことがきっかけとなって怒りの感情がわくのかを思い出し、同じよう状況が起こった時には、「水を飲みに行く」「深呼吸をする」など、具体的な対処法と一緒に確認しておく。

【思いを受け止め、今後の生活について共に考える】

部活動や家庭などでの悩みや不安について、じっくりと話を聞き、本人の思いを受け止める。そして、行事への取組の姿など自分の良い面に気づかせながら、今後、友人に対してどうかかわるか、部活動にどう取り組むかなど、具体的な行動を共に考える。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、学年の教員、生徒指導主事、部活動顧問、養護教諭

【指導目標】

怒りの感情をコントロールすることができる

【役割分担】（指導期間：○月○日～○月○日）

何をする	誰が	どのように
謝罪の場を設定する	学年主任	B男が友人に対し、心から謝りたいと思えるようになったことを確認したら、謝罪の場を設定し、担任や部活動顧問と共に同席する。
授業中の適切な行動を促す	教科担任	各教科の授業で、友人と協力して課題に取り組んでいる場面やリーダーシップを発揮している場面を認める。
部活動において自信をもたせる	部活動顧問	本人に明確な目標をもたせ、励ますと共に、取組の過程をほめるなど自信をつけさせる。
怒りが抑えられない時の対処法を確認する	養護教諭	怒りが抑えられそうにない時は、保健室で落ち着きを取り戻せるようにする。その後、怒りの感情への対処法を確認する。
その場での指導を徹底する	生徒指導主事	B男が今後、威圧的な態度や暴言をとる場面を見かけたら、具体的な対処法をとらせるなど、その場で指導するよう、全職員に周知徹底を図る。

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【指導の様子を丁寧に説明する】

B男の行為を一方的に責めるのではなく、B男や保護者の心情にも配慮しながら、振り返ったことや指導内容について丁寧に説明する。

【今後の支援について共に考える】

まず、B男の学校での活躍やよい面を伝え、B男の成長のためにそれらを生かして支援していきたいことを伝える。その上で、家庭でもB男のよさを認め、励ましてもらいたいことを伝える。そして、今後、連絡を密に取り合い、何か気づいたことがあれば一緒に考えていくことを願う。

— かわりのポイント —

B男に適切な指導がなされないと、次第に攻撃的な行動がエスカレートしてしまうことも考えられます。そのことで徐々にB男自身が周囲から避けられ、孤立を招くこともあります。自分がとった行動についてしっかりと振り返り、心から反省ができるよう指導することが大切です。その際にはB男のよさを認め、励まし、支えるという温かさ、「ダメはダメ」と毅然と指導する厳しさの両面が大切になってきます。

そのような指導をした上で、担任は、今後の生活についてB男と共に考えていくようにするとよいでしょう。

この事例については、部活動だけの出来事と捉えずに、担任を始めとした複数の教職員がチームを組み、長期的、継続的にB男を指導していく必要があるでしょう。

ケース6（中学校）

授業が理解できずに、学習意欲の低下が懸念されるC子

事例の概要

- ・中1女子。入学して各教科の授業が本格的に始まると次第に表情がさえなくなる。
- ・授業中、ぼんやりとしていることが多くなり、学習内容も理解できていない様子であるが、国語の漢字には比較的前向きに取り組んでいる。
- ・普段はおとなしく真面目である。周囲から避けられるようなことはないが、人とかわるのあまり得意ではない。
- ・授業以外の場面では、教師の話に素直に応じ、清掃や給食当番等の場面で手順や方法が丁寧に示されれば、活動をしっかり行うことができる。
- ・C子の所属する学級は明るく活発であるが、度々けじめがつかずに私語が増えて騒がしくなり、授業が中断してしまうことがある。
- ・両親はC子の学習状況について関心が薄い。

事例から考えましょう

①この生徒の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・小学校の時から学習内容の理解が不十分なのではないか。
- ・たくさんの情報が入ると分からないのではないか。
- ・授業が騒がしく集中できないのではないか。
- ・授業中、先生方から声をかけてもらう機会が少なく、「自分なんか…」と思っているのではないか。

②学級担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【ルールやマナーを指導する】

学級の生徒一人一人に対して、授業中のルールやマナーについて再度指導する。学級全体を落ち着いた雰囲気にするによってC子に安心感を与える。

【学習面のつまずきを指導する】

朝の自習の時間を利用して、C子に合った課題を与え、個別に指導する。

【家庭学習の指導をする】

自主学習用のノートを準備させ、小学校時の学習も含めて、できそうなところから始めるよう家庭学習の指導をする。確認する際、その成果にコメントを記入し、励ます。

【授業以外の場面でほめる】

清掃や給食当番などの当番活動の時に、本人が適切な行動をとっている場面を積極的に見つけ、「ありがとう」「助かるよ」などと声をかける。

【生活ノートのコメントを工夫する】

その日の出来事や考えたことなどを生活ノートに書かせ、頑張っているところやよいところを含め、話題を共有し、学校生活に目が向くようにする。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、学年の教員、学習指導主任、特別支援教育コーディネーター

【指導目標】

漢字の学習をきっかけに、他の基礎的な学習にも取り組むことができる

【役割分担】（指導期間：〇月〇日～〇月〇日）

何をする	誰が	どのように
授業づくりの基本について共通理解を図る	学習指導主任	学習の進め方や授業中のルールやマナーについて全職員に周知する
指示や説明を工夫する	教科担任	学習のめあてや学習内容、活動の流れ等について視覚的に説明する。また、一斉に指示した後、必要な場合には、C子に個別に指示を出す。
様々な難易度の課題を準備する	教科担任	難易度が違う数種類の課題の中から、自分に合ったものを選択できる授業を取り入れる。
授業中の生徒同士のかわりを促す	教科担任	ペア学習やグループ学習を取り入れ、友人と共に学習する楽しさを味わわせる。
授業中に声をかける	教科担任	机間指導の際、分からないことはないか、個別に声をかける

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【C子のがんばりを伝え合う】

学校でC子が努力している様子を具体的に伝え、家庭で励ましてもらうようにする。
また、家庭で見られるC子の意欲的な様子について学校に伝えてもらう。

⑤他機関等との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【小学校との連携】

保護者の了解を得て、小学校の時の学習状況や効果的な支援策等について情報を得る。

— かわりのポイント —

学校生活の大部分は授業です。各教科担任が分かりやすい授業づくりを進めながら、一人一人の自信を育む努力が大切です。まずは、授業中におけるルールやマナーについて学級全体に指導し、学級が落ち着きのある、学びに向かう集団となるような基盤をつくるのが重要です。その上で、C子に対して、朝の自習での個別的な指導や自主学習ノートの確認など、学級担任としてできることから取り組みましょう。また、給食や清掃など授業以外の場面でC子のよさを認め、励ますことや、さらに、同じクラスの友人とかわる機会を増やすことも大切な支援といえるでしょう。

ケース7（高等学校）

欠席が増えており、昼夜逆転が見られるA男

事例の概要

- ・高2男子。6月頃より遅刻、欠席が増え始めた。
- ・次第に、スマートフォンでのゲームに熱中するようになり、昼夜逆転の状態が続いている。
- ・授業中は、ぼんやりとして眠そうである。
- ・休み時間には一緒に過ごす友人がいる。
- ・欠課時数が増え、10月に入り、進級が危ぶまれる状況になっている。
- ・保護者が本人からスマートフォンを取り上げようとする、大声をあげて激しく抵抗する。

事例から考えましょう

①この生徒の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・学習や進路に対して目標がもてないのではないか。
- ・学校生活や学習から逃避したい気持ちによって、ゲームに熱中する傾向が強まっているのではないか。
- ・スマートフォンの使い方について、家庭内でのルールが曖昧だったのではないか。
- ・進級の認定基準を十分に理解していないのではないか。

②ホームルーム担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【現在の気持ちや考えを聞く】

学校生活のことや将来の進路目標などを聞き、当面何をすべきかを一緒に考える。

【家庭での過ごし方を一緒に考える】

家庭における時間の使い方を見直し、改善すべき点を一緒に考える。

【登校のきっかけをつくる】

ネットやゲームに詳しい友人や教員とのかかわりの橋渡しを行い、話題を共有する時間をつくることにより、登校しやすい環境をつくる。

【欠課時数の自己管理をさせる】

パソコン等を用いて欠課時数を自己管理させ、あと何時間欠席してしまうと単位修得が難しくなるのかを実感できるように促す。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、副担任、学年主任、生徒指導主事、教育相談係、特別支援教育コーディネーター、情報教育担当、養護教諭

【指導目標】

登校できる日を増やす

【役割分担】（指導期間：○月○日～○月○日）

何をする	誰が	どのように
校内での相談及び外部との連携の窓口になる	教育相談係	担任には話しにくい内容があれば相談を受ける。必要に応じて、相談機関等との連絡調整を行う。
不得意科目の指導をする	教科担任	不得意な科目について、どう取り組んでいけばよいのか、具体的に助言をする。
健康に関する指導をする	養護教諭	昼夜逆転による体調不良への対応について、生活を見直し、健康管理ができるように指導する。
情報教育を行う	生徒指導主事 情報教育担当	全生徒や教職員、保護者に向けて、情報教育に関する講話を実施する。
進路目標実現の手助けをする	学年主任 進路指導主事	進路目標を実現するために、当面の目標を考えることを手助けする。

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【家庭生活について一緒に考える】

保護者の思いを受け止めながら、A男に提案できそうな、スマートフォンの使い方に関する家庭内のルールについて、一緒に考える。

【欠課時数を確認し合う】

保護者に来校を依頼し、欠課時数について知らせる。その際は表を活用するなど、分かりやすい説明を心がける。

— かかわりのポイント —

スマートフォンのゲームから抜け出すきっかけの一つは、A男が他に打ち込めるものを見つけられるようにすることです。友人や先生との関係構築、学習や部活動への参加促進、進路目標の設定など、学校でできることについて、さまざまな角度から考えることが大切です。

また、保護者は、何とかしたいという思いから、スマートフォンを取り上げてしまうことがあります。かえって逆効果になってしまうこともあります。スマートフォンを使用する時間を直ちにゼロにするよりは、ゲームをする時間を決めて、適度に息抜きをしつつ、やるべきこともやるというように、時間の管理や自己コントロールができる力をつけさせることの方が大切です。そのためには、保護者の焦燥感をしっかりと受け止め、効果的な対応についての理解を求めるといった姿勢が必要でしょう。

ケース8（高等学校）

友人関係がきっかけで、リストカットをしてしまうB子

事例の概要

- ・高2女子。自分だけがグループから外されたと思い込み、仲の良かった友人と自分から距離を置くようになる。
- ・高1の時からリストカットが始まった。最近は、校内でも一度行った。
- ・将来に対しては、明確な進路希望をもっており、その実現に向けて努力している。
- ・家族構成は、父、母、姉（3歳年上）、本人。姉は学業優秀で友人関係も円満である。小さい頃から姉と比較されて育った。
- ・友人関係で落ち込んでいても、「そんなことくらいで」と母親は本人に取り合わない。

事例から考えましょう

①この生徒の状況をどのように見たらよいでしょうか

- ・自尊感情が低くなっており、物事を否定的に捉えてしまう傾向があるのではないか。
- ・姉の存在が大きく、どうしても比較してしまい、自信を失っているのではないか。
- ・本音を聞いてもらえる場がないのではないか。

②ホームルーム担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【本人ができていることやよいところを言葉にして返す】

本人自身は自分のよさに目を向けることができにくくなっているため、具体的にできていること、よいところを言葉で本人に伝え確認する。特に、進路目標の実現に向けて努力している点を応援する。

【友人との関係づくりについて一緒に考える】

友人とどのように付き合っていたらよいのかについて、具体的ななかかわり方や応答の仕方を始め、友人との距離の取り方、物事の受け止め方などを一緒に考える。

【定期的に本人の話を聞く】

短い時間でもよいので、期間を設定し、間隔を定めて個別に話を聞く機会を設ける。話したいことをまずは否定せずにじっくり聞く。必ず次に話を聞く約束をする。

【適切な距離感を保つ】

生徒に熱心にかかわるあまり、担任への依存度を高めてしまっては、本人のためにならないこともある。携帯やSNSなどによる個人的なつながりは避け、学校にいる時間という枠の中で、直接のやりとりを通して、十分にかかわるようにする。また、本人とかかわる教員を担任以外にも広げられるようにすることが大切である。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、副担任、教頭、学年主任、生徒指導主事、教育相談係、養護教諭

【指導目標】

自信を回復させ、リストカットの回数を減らす

【役割分担】（指導期間：〇月〇日～〇月〇日）

何をする	誰が	どのように
リストカット以外の方法を一緒に考える	養護教諭	リストカット以外の対処法を落ち着いている時に一緒に考える。
授業中の様子を伝える	教科担任	不安定な様子が見られたら、担任や養護教諭、次の授業担当者に伝える。
指導・援助の進捗状況を把握し、担任を支える	教頭 生徒指導主事	担任から、適宜報告を受け、進捗状況を把握し、課題があれば相談に乗る。指導・援助を行っている教職員に様子を聞く。
担任と共に保護者と連携する	教育相談係	担任と保護者との面談に同席し、校内での指導・援助について伝える。また、必要に応じてスクールカウンセラーとのつなぎ役を担う。

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【不安を十分に聞く】

どんな時が困るか、どんな点が心配か、具体的に話を聞くとともに、保護者の労をねぎらう。学校に対する要望などを聞き、できる指導・援助を具体的に伝える。

【家庭でも取り組めそうなことを共に考える】

本人が自信を取り戻すためには、家庭でのかかわりが重要な意味をもつことを伝え、協力してもらえそうなことは何か具体的に話し合う。

⑤他機関等との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【医療機関との連携】

リストカットの状況が悪化する場合には、学校と家庭で配慮すべき点について、保護者とともに医師から助言をもらう。

かかわりのポイント

リストカットの回数を減らすことそのものに注目しすぎてしまうと、「本人はリストカットをせざるを得ない気持ちを分かってもらえない」と感じ、なかなか状況は改善されません。遠回りに思えますが、「行為」よりも「気持ち」に焦点を当てて対応することが大切です。

B子の場合は、リストカットが繰り返されていますので、「リストカットをすると話を聞いてもらえる」という状況から「リストカットをしなくても定期的に話を聞いてもらえる」という状況への転換を図ることで、安定化を目指します。それにより、友人関係で気になる出来事が起こっても、受け止め方が変わるということも期待できます。このような支援を継続するためには、本人の希望を踏まえながら、話を聞く教職員を担任以外にも複数決めておくといよいでしょう。

ケース9（高等学校）

高校入学後、学習意欲が低下して家庭で暴れるC男

事例の概要

- ・高1男子。中学校時代は校内で最上位の成績であったが、高校入学後は、成績不振が続いている。
- ・週末に出される課題が、提出できないことが多い。
- ・入部している吹奏楽部では、休日でも活動に参加している。
- ・2学期になり、学習への意欲が急激に低下し、学校をやめたいと言い出す。
- ・保護者は難関大学へ進学させたい思いが強い。
- ・家庭で保護者が学習や進路についての話をすると、家具を壊すなど暴れていることが保護者面談で分かった。

事例から考えましょう

①この生徒の状況をどのように見たらよいでしょうか？

- ・学習の仕方そのものが分からないのではないかな。
- ・学習についていけず自信をなくしているのではないかな。
- ・学習面を最優先にする保護者の方針に対して、本人は重圧を感じているのではないかな。

②ホームルーム担任としてどのようにかかわったらよいでしょうか？

【気持ちを聞く】

家庭で暴れていることは担任に知られたくない場合もあるので、その話題から切り出すことを避け、まずは学習面に関して話を聞く。どのような点に困っているのか、どのような点が心配なのかを具体的に聞き、C男が抱えている辛い気持ちを受け止める。

【学習面で自信を取り戻すかかわりをする】

できていることを認め、励ましながら、取り組めそうな教科は何かを一緒に考える。

【自己理解を深めさせる】

興味のあることや得意なことに気付かせ、それを生かすためにできることを一緒に考える。

【多様な価値観に触れさせる】

本を読むことを勧めたり、さまざまな友人や教職員とのかかわりがもてるように援助したりする。

③校内における組織的な対応はどのように進めたらよいでしょうか？

【小委員会のメンバー】

担任、副担任、教育相談係、学年主任、教科担当、学習指導主任、養護教諭

【指導目標】

学習の仕方を身につけ、課題が提出できるようにする

【役割分担】（指導期間：〇月〇日～〇月〇日）

何をする	誰が	どのように
本人の気持ちを理解する	教育相談係	担任に話しにくいことがありそうならば、機会を捉えて話を聞く。必要に応じて担任に情報を伝える。
学習の仕方を教える	教科担任	学習の仕方について個別に教え、その後、取り組んでみてどうであったかを確認する。
課題の調整を図る	学習指導主任	週末課題の出題状況を把握し、適切な分量で出題されているか、再検討を促す。
居場所をつくる	部活動顧問	積極的に声をかけ、音楽に関する話題を共有する。また、役割を与えるなど、C男が充実した活動ができるよう配慮する。

④保護者との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【刺激となる話題を避けてもらう】

暴れるのは、保護者の言動が引き金となっていることから、本人から言い出さない限り、学習や進路の話題に触れることを避けてもらうようにする。

【発達段階を踏まえたかかわりを提案する】

C男にとって、自らの力で進路選択をすることは、自立につながる。親の価値観や希望によって、子どもを動かすのではなく、C男が自分で目標を見つけ動き出せるよう、よさを認めながら、相談に乗ったり、見守ったりする姿勢でかかわることを提案する。

⑤他機関等との連携をどのように図ったらよいでしょうか？

【相談機関との連携】

保護者からの希望がある場合は、スクールカウンセラーや外部の相談機関につなぐ。

— かかわりのポイント —

中学校までは、学習に自信があった生徒も、高校に入学したとたんに、授業のペースに乗り切れず、苦しい思いをすることがあります。その辛さを乗り越えて、身につく強さこそ貴重なものです。しかし、中にはすべてに自信を失い、もてる力を十分に伸ばすことができなくなってしまう生徒もいます。それは非常に残念なことです。

自信を回復させるためには、まずできていることを認め、言葉で返すことが大切です。また、学校全体として、学習面以外の価値や意義も大切にすることで、生徒の考え方にも柔軟さが生まれ、前向きに取り組もうという意欲につながるのではないのでしょうか。



参考資料のご案内

本事例集に関連する、教育相談部発行資料をご紹介します。

学級・ホームルーム担任のための教育相談

第12集 リストカット・自殺企図・摂食障害の理解と対応（平成15年度）

第13集 保護者との連携を深めるために（平成16年度）

第14集 キルル子どもの理解と対応（平成17年度）

第15集 いじめへの対応（3）（平成18年度）

第16集 人間関係を築く力を育てるために（平成19年度）

第17集 子どものつらさや悲しみにどう寄り添うか（平成20年度）

第18集 自殺予防教育について考える―危機を乗り越える力に焦点を当てて―（平成22年度）

第19集 自尊感情を育むために―伸ばす・低下させない・回復させる―（平成23年度）

特集1

校内支援体制構築のための参考資料

―平成24年度校内支援体制研修受講者の実践事例及びアンケートから―（平成24年度）

特集2

校内支援体制構築のための手引き書

～一人一人の児童生徒が生き生きと学校生活を送るための組織作りQ&A～

（平成25年度）

児童生徒への適切な指導のために ～指導の進め方～〔リーフレット〕（平成26年度）